

令和7年度 良質な医師を育てる研修 ～ 病院勤務医に求められる総合内科診療スキル ～



**超高齢化社会で求められる
どの科でも役立つ実践スキルを獲得**

日常診療では複数の疾患をもった患者さんや「せん妄」「廃用症候群」の高齢患者さんもいます。こういった患者さんは治療のみでは退院が困難なケースも多く、生活環境まで含めた包括的な支援が求められています。臓器別の専門研修ではこれらの問題を系統的に学習する機会が乏しいため、NHOの総合内科スタッフが中心となり、2014年より「病院勤務医に求められる総合内科診療スキル」研修を開始しました。本研修では、患者さんの抱える療養上の問題に対処するための実践的な診療スキルを育成し、若手医師の間で総合内科診療への理解と関心が広がることが期待されています。

講師

長崎医療センター
総合診療科・
総合内科

山中 萌奈美

PROFILE

出身地：長崎県
出身大学：長崎大学(2018年卒)
座右の銘：当たり前のことを
当たり前に出る医師になる



研修医時代

研修医へオススメの本

みんなで楽しく
ホスピタリストになろう！
エビデンスと実臨床の架け橋

永井 友基、松坂 俊、
橋本 知直、阿河 昌治(編集)



受講者

東広島医療センター
臨床研修医 2年目

岡田 駿

PROFILE

出身地：広島県
出身大学：島根大学(2023年卒)
宝物：家族・友人・同期
座右の銘：継続は力なり



この研修の特徴について

山中…私は初期研修をNHO病院で行ってはおらず、「良質な医師を育てる研修」を知ったのは後期研修医として長崎医療センターに入職してからです。「すごく勉強になり、しかも楽しい」という声を、受講者や講師の先生方からも聞いており、今回、講師側ですが初めて参加させていただきました。全国から集まった受講生のみなさんは積極的にロールプレイやディスカッションに取り組んでおり、笑顔も多く見え、楽しく学ばれている印象を受けました。「良質な医師を育てる研修」は、「明日から現場で活かすことができる実践スキル」やNHOならではの「独自性の高い学び」を得られることが特徴です。今回の総合内科診療スキルの研修では、『ユマニチュード』(フランス発祥のケアの技法や考え方)についてのレクチャーがありましたが、これは東京医療センターの本田美和子先生(総合内科医長)が日本の第一人者として取り組んでいるものです。受講者のみなさんは、他の医療機関ではなかなか触れることのない、貴重で有益な学びを得ることができたのではと思います。

研修に参加して得られたこと

岡田…診察のコツ、救急外来や病棟

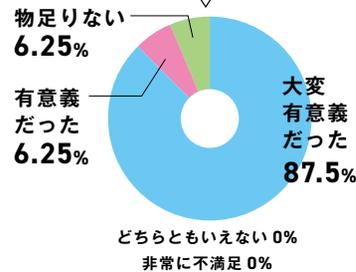
での対応など幅広く学びましたが、特に印象的だったのは、診療における“考え方”や“視点”を学んだことです。普段の研修では診断・治療方法にフォーカスした学びが多く、“考え方”や“視点”を学べたことは新鮮でしたし、「診断エラーの対応方法」も非常に勉強になりました。内容も具体的で分かりやすく、実践的で、直ぐにでも現場で活かすことができる有意義な学びを得ることができました。また、「良質な医師を育てる研修」は、全国のNHO病院から参加される研修医や講師の先生方と交流ができることも魅力です。情報交換をしたり、多様な考え方を吸収したり、幅広い人脈を築くこともできるなど、参加する意義は非常に大きいと感じています。

読者へのメッセージ

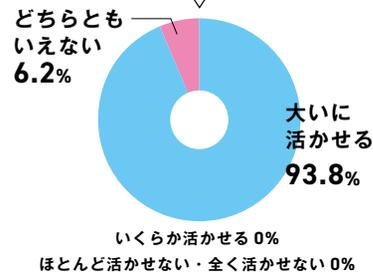
岡田…今回の研修に参加したのは、将来、消化器内科医として地域医療に貢献したいと考えており、そんな自分にとってうってつけの内容だったからです。実際に受講して、総合内科診療スキルの研修ではありますが、診療での“考え方”や

セミナー参加者の声

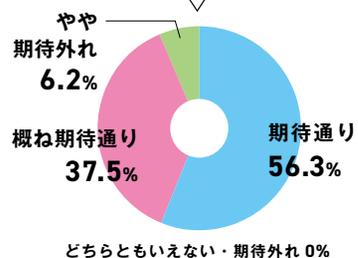
Q 研修の感想は？



Q 今後に活かせる？



Q 期待したとおりの研修内容だった？



“視点”、救急外来や病棟での対応などは、将来、どの科に進んでも活かすことができるものだと感じました。この研修は目指す診療科に関係なく、すべての研修医に自信をもって勧めることができる研修だと思いました。山中…超高齢化社会を迎え、多疾患併存患者が増加しているなか、医師に求められているのは総合力や各専門科への確にコンサルトができるスキルであり、この総合内科診療スキルの研修は、全診療科の医師にとって非常に役に立つ内容となっていることもポイントです。この研修で得たスキルを、普段の診療の場で実践することで新たな疑問や発見も生まれるでしょう。そこからさらに勉強をして知見を広げたり、その過程で興味のある分野を見つけ、知識を深めていったりと、この研修への参加をきっかけに超高齢化社会で必要とされる医師としての“幅広さ”を培ってほしいと思います。

